

柏葉通信

発行所

福岡県立三潁高等学校

同窓会

福岡県久留米市城島町

電話 0942-62-3146

印刷 中央印刷(株)

令和8年度 同窓会総会にあたって



同窓会準備委員長
高三十一回 江島 信幸

三潁高校同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

この度、令和8年度同窓会総会の準備委員長を仰せつかりました江島信幸と申し上げます。

私たち高31回・高41回・高51回が今年度の当番幹事で、今年度の同窓会の準備を進めているところです。

また、今村同窓会会長はじめ、仲事務局長、役員理事の皆様、各支部の皆様にも同窓会総会の準備を応援していただき大変感謝申し上げます。

早いもので、十年前も実行委員として、総会の準備、祝宴の

進行をさせて頂きました。当時は、今と違って三潁高校の体育館にて開催されていて、55歳(当時)が実行委員長として参加券の販売、新聞広告のお願い、準備全般、駐車場整理と中心としてほぼ任されました。久しぶりの同級生のみならず、合同作業で、公民館の一室を借り何度も何度も集まっていた、打ち合せから昔話へと懐かしい思い出です。令和5年度に100周年記念大同窓会を機にホテルニュープラザ久留米にて行われるようになったとの事です。

思い起こせば50年前に城島中より、自然な流れで地元の三潁高校に進学しました。私達の頃は、農業科も終わって、スポーツ科も始まってなく6クラスすべて普通科でした。部活はバスケット部に入学しました。今の大きい体育館はまだなくて、校門側東奥の小さな体育館が練習場で、バレーボール部とバスケット部が半部分づつで、その又半分が、男子の練習場でした。そこでのいい仲間とも巡り合い昼夜を問わず青春を送る事ができました。



ご挨拶

同窓会副会長 高十九回
塚本 博

力したいと思います。

同窓会の皆様、この度伝統ある三潁高校の同窓会副会長をお引き受け致しました一九回卒業の同窓会三潁支部の塚本博です。振り返りますと卒業して六〇年と、とんでもない歳月が経っていることに改めて感慨深く感じているところで、当時もそうでしたが、特に陸上部や水泳部の活躍は誇りで現在も引き継がれているのを光栄に思います。長年にわたり同窓会の発展の為に尽力されておられる会長ほか、理事の皆様と一緒に、母校の更なる発展と、会員の皆様の絆を深めるための活動に可能な限り努



ご挨拶

校長 甲斐田 修

今年度より三潁高等学校の校長として着任いたしました甲斐田修と申します。

三潁高校同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に対し、格別の御理解と御支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。身に余る重責ではございますが、歴代の校長先生方同様、格別の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、7月28日に「令和8年熊本地震」が発生いたしました。

同窓会の皆様、関係者の中に被災された方がおられるかもしれません。まずもって、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、近年、学校現場を取り巻く環境は日々大きく変化してきております。本校におきましても少子化による受験者数の減少等、課題は山積しております。今、地域では、「本校が無くなるのではないか」という噂が

流れています。特に近年は、その傾向が強く、同窓生の皆様の中にも、そのような噂を耳にされた方がいらっしゃるかもしれません。結論から申し上げますと、そのような事実は一切ございません。校長として、皆さまに心から安心していただきたいと思っています。その根拠としては、今年度中を目標として体育館に空調設備を整備されるからです。無くなる学校に県は、設備投資をいたしませんのでご安心を。

このたび、教頭として着任いたしました。石蔵慶典(いしくら よしのり)です。歴史と伝統ある三潁高校で勤務できることを大変光栄に思います。また、元気で明るい挨拶をしてくれる生徒たちと一緒に成長していきたいと思っています。

同窓会の皆さまにおかれましては、日頃より母校の発展のために物心両面にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆さまの温かいご支援が、現在の三潁高校を力強く支えてくださっていることを実感し、未来に向かって前進していきたいと思



着任のご挨拶

教頭 石蔵 慶典

各界各方面で活躍中の会員の皆様のお力添えが欠かせません。今後共、変わらぬご理解とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ、副会長の就任のご挨拶とさせていただきます。



今後、教職員一丸となつて、生徒たちの健やかな成長を支え、地域に愛される三潁高校であり続けるよう努めてまいります。どうぞ変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、同窓会の皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、着任の挨拶いたします。

令和8年度



総会案内

三潁高(旧中)同窓会

とき 10月24日(土曜日)

ところ ホテルニュープラザ久留米

会費 6,000円 ※当日も受付けます。

●プログラム

- 総会:15時 □講演:16時
- 祝宴:17時

【講師】

「ウオーキングで健康寿命を未来へつなぐ」

吉武 裕 氏(医学博士・名桜大学大学院特任教授・高24回)

◆プロフィール◆



- 1972年 三潁高校卒業
- 1976年 福岡大学卒業
- 1979年 筑波大学大学院体育研究科修了
- 1980年 愛媛大学医学部助手
- 2000年 鹿屋体育大学体育学部教授
- 2024年～名桜大学大学院特任教授

●同窓会総会担当

準備委員長 江島 信幸 (高31回)
高31回・41回・51回

三潁高等学校同窓会 オープンチャットQRコード

入力方法

- 1.スマートフォンカメラでQRコードを読み込む
- 2.LINEのメッセージで「このサイトは別のアプリケーションで開こうとしています」と表示されますので「許可する」を押す
- 3.オープンチャットが開くので新しいプロフィールで参加を押す
- 4.ポリシーに同意画面で「同意」を押す
- 5.ニックネームの入力画面でご自身の卒業回と本名を入力
- 6.「参加」を押す

卒業回 本名 (昭和53年度卒が卒業回31)

(例) 31三潁太郎



- 【生年月日】
- 昭和45年4月～46年3月生が卒業回41
- 昭和55年4月～56年3月生が卒業回51
- 平成 2年4月～3年3月生が卒業回61
- 平成12年4月～13年3月生が卒業回71

つながる絆 広がる輪

三潯高校同窓会
支部だより

三潯高校同窓会には7つの支部があり、卒業してからも母校とつながれる拠点、年齢や卒業年度を越えて新しい出会いを育てられる場所として、総会の開催等活動が続けられています。
今年、大木支部が結成50周年の節目を迎え記念の総会を開催されました。大木支部からの投稿を中心に、各支部の総会の状況をお知らせします。

同窓会大木支部総会(結成50周年にあたって)



第二十六回 古賀靖子

令和8年6月6日、三潯高校同窓会大木支部総会を開催いたしました。本年は支部結成50周年の節目にあたり、理事会にて1年前より準備を重ねてまいりました。大木支部は昭和51年1月に結成され、初代支部長に当時大木町町長であった野田武夫氏、事務局に当時町職員で後に町長となられた石川隆文氏を中心に、公職・民間の各分野で活躍された諸先輩方が結集し、地域と母校をつなぐ拠点として設立されたと伺っております。先人の高い志とご尽力により今日の礎が築かれたことに、深く敬意と感謝を申し上げます。現在の支部長は第12代石川進氏であり、事務局も歴代にわたり町職員の皆様に支えられており現在も引き継がれています。

事務局から副支部長、支部長と通算33年にわたり支部役員として、また本部理事としても18年間ご活躍されました。ご功労に感謝申し上げます。
総会後の祝宴では、抽選会で当選番号が発表されるたびに歓声が上がり、和やかな雰囲気の中で世代を超えた交流が広がりました。若い世代や女性の参加者も多く、支部のつながりの広がりを実感するひとときとなりました。今後とも同窓会として在校生の活躍を期待するとともに、母校のさらなる発展を応援してまいります。



原田忠氏



大木支部総会当日は、来賓の皆様を含め53名が出席し、母校関係者や同窓会本部、近隣支部の皆様のご臨席を賜りました。支部表彰では、長年にわたり支部および本部の発展に尽力された高11回の原田忠氏に感謝を込めて表彰を行いました。原田氏は大木支部の

同窓会支部総会状況

●大木支部 (五十周年記念)

支部長／石川 進
期 日／6月6日(土)
場 所／デリ&ビュツフェくるるん
出席者／53名
本部出席者／
今村会長 甲斐田校長
野田事務長



●城島支部

支部長／中島哲郎
期 日／5月16日(土)
場 所／あおき温泉
出席者／約50名
本部出席者／
今村会長 甲斐田校長
石蔵教頭 野田事務長



●東海支部(予定)

支部長／森永重代記
期 日／11月7日(土)
場 所／未定



▶昨年の様子



柏葉通信は、三潯高等学校ホームページに掲載しています。

<http://mizuma.fku.ed.jp>

三潯高等学校

Q 検索



三潯高校ホームページ



Instagram



X

▶学校行事や部活動の様子など、随時アップしています。ぜひフォローをお願いします！(学校HPからもご覧いただけます。)

私の青春は戦争とともに



旧中十八回 居石 邦昌
(四年の部)

私は98年の人生を歩んできました。その青春時代は、戦争という大きな時代のうねりの中にありました。
旧制三潯中学校に入学した頃は、勉学や友人との楽しい日々を思い描いていました。しかし、戦況が厳しくなるにつれ、学ぶ時間は次第に失われ、4年生の昭和19年11月、福岡への学徒動員が命じられました。私たちのクラスは船舶修理工場で働き、国のために懸命に汗を流したものです。
翌昭和20年3月、4・5年生は同時卒業となり、本来なら卒業を喜び合うはずですが、卒業式は行われず、そのまま動員作業に明け暮れていました。クラスの皆で動員先の寮でささやかな卒業パーティーを開いたことが良い思い出となっています。
その年の6月19日の夜、福岡大空襲を経験しました。出先からの帰路、空襲警報が鳴り響き、その後投下された照明弾で街が真っ赤に照らし出されました。橋の下で焼夷弾をかわして事なきを得ましたが、空を覆う爆撃機の音、燃え広がる街、逃げ惑う人々の姿は、今も心に深く刻まれています。
この空襲で動員されていた工場も焼けてしまい、行くところもなく、その年に合格していた日本体育専門学校(現日本体育大学)に入学のため上京しました。
そして、直後の8月15日に日本は終戦を迎えました。終戦直後の混乱は大きく、思い描いた学生生活を続けることはかなわず、帰郷することとなりました。
その後は仕事にも恵まれ、大病も克服し、沢山の趣味で回りの人々を笑顔にしながら今を生きています。
しかし、振り返れば、私の青春は戦争に翻弄された日々でした。平和な時代を生きる人々には、戦争のない日常が、どれほど尊いものかを大切にしてほしいと思います。そして、私たちが歩んだ時代を忘れることなく、未来へ語り継いでいってほしいと願っています。



▶三中健児代表大川四年組 甲飛を送る
(下段右から2番目 居石氏)

NO WAR!



古希⁷⁰ 26期古希祝いの会について

古希祝賀会開催
に向けて

前編



八山 敏幸

令和5年11月に開催した高校時代の3年4組クラス会で、「70歳という人生の節目を迎えるにあたり、同期生みんなで古希を祝おう」という声が上がりました。さらに三漕高校創立100周年記念行事では、学年同期生68名が再会し、親交を温める中で古希祝賀会開催への機運が一層高まりました。当初は一部のクラスでの開催も検討されましたが、「せっかくなら学年全体で集まろう」との意見がまとまり、全クラス合同での開催を目指すことになりました。

そこで、6クラスからそれぞれ2〜3名の実行委員にご協力いただき、実行委員会を組織しました。準備期間は約11か月に及び、その間8回の実行委員会を開催し、会場選定、参加者名簿の整備、案内方法の検討などを進めました。また、259名の卒業生一人ひとりに参加を呼びかけるため、連絡先の確認や案内状の発送など、多くの方々の協力を得ながら準備を重ねました。そして、実行委員会をする度に会議後は毎回飲み会を行い楽しみながら進めて行きました。

その結果、令和7年11月22日の古希祝賀会当日は100名近くの同期生にご参加いただくことができました。

笑顔と熱気に
包まれた当日の模様

中編



大橋 弘幸

冒頭の実行委員長としての挨拶では、「高校を卒業して五十数年の歳月を経て、こうしてお互いの古希を祝い合える三漕高校でのご縁に感謝します」との思いをお話しさせていただきました。

乾杯後の歓談に続き、高木一成君がこの日のために作成してくれたスライドショーが上映されました。スクリーンの中、高校時代の自分たちと今の姿とのギャップの大きさに、お互いを見比べながら笑い合う賑やかな鑑賞となりました。さらに、今のAI技術で当時の写真に動きをつけた動画が流れ、会場のあちこちから当事者の人たちの感嘆の声が上がり、現代の技術の進歩に驚かされました。

その後に行なわれた各クラス代表による一分間スピーチや全員参加の伝言ゲーム、山村善昭君提供の「久留米餅」の抽選会と、会場は大いに盛り上がりしました。

会の終わりに岡山隆幸君の指揮により全員で「高校3年生」を合唱。懐かしい高校時代を思い出し、久しぶりの再会を得た確かな絆を全員で実感しながら、歌詞を囁みしめました。



第1回実行委員会後の懇親会

絆を未来へ

後編



中村 千賀子

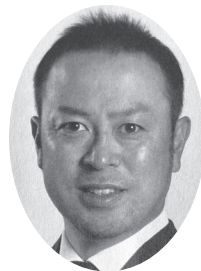
皆さんと過ごした楽しい時間はあつという間に過ぎ、素晴らしいひとときとなりました。この同期会を通して半世紀という長い年月を経た今も、お互いを思いやり、心を通わせ合える友がいる喜びを、改めて深く実感しました。

こうした一人ひとりのつながりが、私たち二十六期生の強い結束を育んできたのだと思います。この大切な絆を胸に、全員が元気に次回の再会へと繋がるともに、私たちの歩みが母校の未来を照らす力となることを願っております。

いつの日かまた、青春の思い出話を花を咲かせる日が来ることを楽しみにしています。

結びに、三漕高校の益々のご発展と同窓会の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

田園風景の中で育む未来への希望



第五十四回 横山 馨

このたび当会の理事を拝命致しました、三漕支部世話人の横山馨（かおる）と申します。

私は少年時代から社会科学に関心があり、在学中は昼休みに図書室に入り浸り、読書に励んでいた日々を今も懐かしく思い出します。

平成15年に久留米大学法学部に進学し、国際政治を専攻し学問に打ち込みました。大学卒業後は同大学の行政職として、医療・教育・研究の現場に15年間従事して参りました。令和3年に退職し、30代半ばで家業の農業を継承したことが人生の転機となりました。

オフィスでパソコンに向かう毎日から一転、土にまみれ田畑

三漕高校水泳部と私



第七十一回 塚本 珠美

私は、三漕高校の卒業生であり、現在は母校に勤務させていただいております。在学中は水泳部に所属し、仲間とともに日々の練習に励みました。結果が出ず悩んだことや、苦しい練習に心が折れそうになったこともありました。が、仲間と励まし合いながら、目標に向かって努力した時間は、今でも大切な思い出です。また、競技だけではなく、挨拶や礼儀、周囲への感謝など、人として成長するために欠かせないことも多

く学びました。

振り返れば、三漕高校だからこそ挑戦できたこと、経験できたことが数多くありました。私にとってこの3年間は、結果だけではなく、目標に向かって努力する過程そのものに大きな意味があることを学んだ、かけがえのない時間でした。学ぶ環境が整っていることは決して当たり前ではなく、多くの方々の支えによって成り立っているのだということに気づかされ、私にとって大きな財産とな

かった」という思いが芽生えました。

さて、昨今の少子高齢化時代に思うことです。過ぎ去った過去に焦点を合わせるのではなく、目の前にいる一人ひとりと直に向き合い、力を合わせて新たな未来を共に創る姿勢を持ちたいものです。

先日わたしはJAみづま青壮年部活動の一環で、管轄の小5年生を対象に田植え体験学習の講師を務めました。次代を担う子ども達がふるさとの風土に愛着を持ち、元気に育つてくれれば何よりです。また、この子たちの中から将来、三漕高校への進学希望者が出てくれるなら嬉しい限り。みな様がそうであるように、わたしも三漕高校同窓生として誇りと情熱を胸に、社会の発展のために活動して参る所存です。



三漕高校は創立103年、水泳部も101年という、輝かしい歴史を刻んでいます。かつて学ぶ側であった私が生徒を支える側になり、高校時代に経験したことや学んだことを生徒たちに伝えていくこと。それが、三漕高校の伝統を次の100年へとつないでいく一つのきっかけになればと日々考えています。生徒たちには、学校生活や部活動、仲間との関わりを通して、自分自身の可能性を広げ、充実した3年間を過ごしてほしいと願っています。そして、周囲への感謝や思いやりを忘れず、社会に出たときに多くの人から必要とされ、それぞれの場所で力を発揮できる人へと成長してほしいと思います。これからも母校のさらなる発展につながるよう、生徒たちと誠実に向き合っていきたいと思っています。

令和七年度 進学合格及び 就職内定一覧

◎進学合格一覧

大学（30名）※既卒生を含む
鹿屋体育大学・福岡大学・久留米大学（医学部看護学科を含む）・九州産業大学・久留米工業大学・九州共立大学・日本経済大学・九州情報大学・京都産業大学・神戸学院大学・熊本学園大学
短期大学（1名）
中村学園大学短期大学部
専門学校（22名）
麻生公務員専門学校福岡校・麻生情報ビジネス専門学校・福岡リゾート＆スポーツ専門学校・福岡医療専門学校・福岡医健・スポーツ専門学校・福岡医療秘書福祉専門学校・大原公務員専門学校・福岡校・大原簿記ビジネス専門学校福岡校・公務員ビジネス専門学校・福岡ビジネスクーアカデミー・平岡調理製菓専門学校・久留米歯科衛生専門学校・壺溪塾・吉本総合芸術学院大阪校・資格スクール大栄・久留米高等技術専門学校

◎公務員（3名）

税務職員・大阪府警察・陸上自衛隊（自衛官候補生）

◎就職内定一覧（25名）

株式会社オーレック・トヨタ自動車株式会社・株式会社ブリヂストン久留米工場・ヤンマー建機株式会社・株式会社ヤマダデンキ・東洋ビューティ株式会社佐賀工場・ダイハツ九州株式会社・ホクト株式会社・株式会社エフビコ九州・日本郵便株式会社九州支社・山崎製パン株式会社・日鉄プロセスング株式会社・株式会社サニックス・喜多村石油株式会社・アート引越センター株式会社 他

[illegible]